

# 「竹炭」製作手順

## 1. 竹の切り出し

- ①切り倒し (竹用)ノコギリを使用して切り倒す
- ②枝払い 棍棒を使用して枝を払う
- ③切りそろえ 運搬し易い長さ(ゲージ使用)に切る
- ④枝等の整理 (地面を前面覆ってしまうと草や木の芽が出てこなくなる)

枝や葉を固めておいて置きます。・・通路の確保、植物の芽が出るように

- ⑤運搬 炭焼き釜近辺へ運搬する

- ・ 冬の竹は水分が少ないので、炭焼きに良い
- ・ 1年生の竹は水分が多いので避ける(2年生位まで根元に皮をかぶっている)
- ・ 太い竹を選ぶ(炭になると収縮する) 直径 10cm 以上
- ①切り倒したい方向から直径の半分くらいノコギリを入れ、
- ②反対側から切断する。
- ・ 切れる寸前からきった後、倒したい方向に(横から)押す。

### 注意事項

- ・ **横側へ退避できるような足場の確保**

倒れる時に跳ね上がることがある

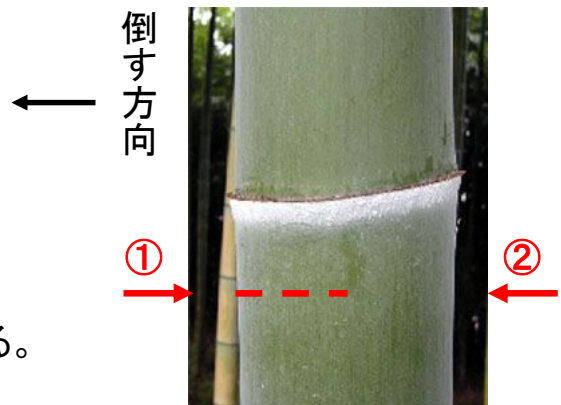
重心が真ん中にあるとは限らず、

又、風等で思わぬ方向に倒れることがある。

- ・ **他の作業者との距離を十分保つ**

竹が倒れても人に当たらない距離を保って作業すること。

- ・ 架かり木になっても二人居れば、対処できる(檜や杉の間伐材ほど重くない)
- ・ 竹の枝・葉・皮で簡単に手を切るなので、必ず軍手等、**手袋をはめて作業**する事
- ・ **頭上に注意** 大きな枝が落ちてくることがあります。特に枯れた木の下は危険です
- ・ **足元に注意** 筍や山芋堀の穴をそのままにする人が後をたちません。
- ・ **スズメバチに注意** 冬は問題ありません



(竹用のノコギリ 生木用よりも目が細かく、歯厚も薄いノコギリ。  
生木用のノコギリでも問題は無いが、竹用の方が切り易い。)

## 2. 切りそろえ

### ①切り揃え

窯に入れる大きさに切りそろえる(ゲージ、竹用ノコギリ使用)

### ②4分割(太いものは6割や8割にする事もある)

乾燥・詰めこみ易い太さにする(ナタ使用)

### ③節取り

詰め込むとき隙間が出来ないように節を取る(ナタ使用)

- ・ **ナタは特に注意** 勢いが付いているので扱いに注意してください。
- ・ **十分な距離** お互いに十分な距離を置いて作業すること。
- ・ **特に横に注意** 竹を割る時、横に飛ぶことがあります。

## 3. 乾燥

乾燥しやすいように積み上げる          2週間から、3週間干します。

## 4. 窯入れ

隙間が無いようにギッシリ詰め込む

## 5. 炭焼き **煙の色と温度で調整**する

竹を燃やすと言うより、高温に晒して、揮発成分を飛ばし、有機物を分解して  
**炭化**する。分解したガスは自燃して高温雰囲気を作り、炭化を進める。

十分加熱しないと炭にならず(電気抵抗が高い)

酸素が入り過ぎると自燃しすぎて灰になってしまう。

## 6. 取り出し

袋詰め イベントで配布できるように形が崩れたもの以外を定重量袋詰めする

## 7. 利用

区民祭りや環境のイベントの参加者の方に差し上げています。

木の炭よりも単位体積当たりの面積が大きいので

熱源としては、木の炭より劣るが

調湿、臭いの吸収などには優れていると言われています